
孕んだ男たち

宇ノ鹿 すい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

孕んだ男たち

【Nコード】

N0665N

【作者名】

宇ノ鹿 すい

【あらすじ】

こんな将来になったら怖いね。

友人が妊娠したという話を人越しに聞いて、俺は慌てた。

慌てたままに彼が入院しているという病院まで向かうと、本当に彼は妊娠していたのだ。

一見すると古ぼけた、という感じがする病室の中を見回すと、圧倒的というか二度とみたくない光景が満ち溢れている。妊娠している男が何人もいる光景ということが目の毒だということを俺は認識した。看護婦やドクターの白衣がマッチングするのであるうくすんだ白を基調とした部屋の中で、くすみ過ぎている中年男ばかり。花瓶に挿されている花が彼らと合わない。みんなはげてる。しかも臭そう。たまったものじゃない。たまったものじゃないけど彼らは生きていたのだ。しかも新しい命を生み出そうとしている。現在。

せみがどっかで鳴いてるのがうるさい。夏の季節。窓が開いているらしい。

俺はしかめっ面を隠さないままに、病室の中をずんずんと突き進んでいく。病室の窓側の左側、そこに友人のベット。つまり、友人がそこにいたのである。

「…よう」

俺は様子を伺うという意図で、静かに挨拶をした。妊娠した男がどのような振る舞いをするようになるのか気になったからである。だが、友人は嬉しそうにお腹をさすっているのだった。中年男でハゲてる友人がお腹をさすっているのである。繰り返す。

「よう元気かい、陽ちゃん！」

陽氣に俺に向かって挨拶をかましてきた友人。俺はみていて憎たらしかった。男性が妊娠してしまったという行為に対して全くの罪悪感らしきものも見せない彼が憎たらしかった。世間に認められている行為だからといっても、倫理的に許せる行為ではない。俺としては。うらやましいわけでは当然無い。

「孕んじゃってさあ」

とか友人は俺にあくまでも陽氣である。そして腹をさすることを繰り返す。

「シングルファザーをやるってのかい」

俺は友人に尋ねる。友人は愉快に楽しそうに笑って頷く。

「やるよ。だからこういう体が変わった」

彼は幸せそうだ。

現代では人体に対する研究が進んだおかげ（？）で男性が子供を孕むことが可能になった。さらに、どんな子供が生まれどんな風に成長するのかさえある程度把握できるようになったし、生前から性別や容姿などをコントロールできるようになったのである。

そういうわけで女性が精子だけ貰って子供を産むという行為は以前からあったが、理想の子供を自由自在に生み出すことが出来るようになった大人たちはバンバン子供を作った。大人たちは理想の男の子もしくは女の子をバンバン孕んで産み落とした。そんな状況に反乱する人も多くいたが、コントロールした側としていない側で子供の能力に大きな隔たりが生まれ、コントロールされていない子供たちは学校で馬鹿にされた。あるいはコンプレックスだらけにされた。そういうわけで、コントロールする側がいつしか社会の正しい側に代わり、コントロールを拒否する側は偏屈者あるいは白い眼で見られるということになった。

恐ろしい話であるが現代では別に恐ろしいとはされない。
常識である。

だが何を間違ってしまったのか。コントロールに対する神からの
反逆であろうか、たまにとんでもない子供が生まれることがあった。

赤ん坊になってから数ヶ月で言葉を喋るようになり、一歳に達す
頃には大人たちを観察するような眼で見えるようになったのである。
大人たちを小ばかにするように、あるいは哀れにみるように、ある
いは怒りをぶつけているように。一歳なのに反抗期あるいは思春期
のような瞳をする赤ん坊が、時折現れるようになったのである。一
歳である。恐ろしい。

しかも大概その子供たちは親を殺すのだそうだ。殺し方は決まっ
て包丁である。恐ろしい。

そういう子供が増えてきたのでヤッパ怖いねコントロールってい
う世論が唱え始められた。そういうわけでコントロール問題がニ
ースで取り上げられるようになった頃に、俺の友人は子供を孕んだ。
『とっても可愛くてしかも性格がおっとり』な子を産み落とすつも
りらしい。気持ち悪いからぶん殴りたかったけど病院だったから止
めた。殴ると拳が痛いし。

「ま、別に俺はかまわないけどさー」

と俺は他人事を決め込んでいる。友人は腹をしきりにさすっている。

「退屈な人生の面白みのためには男で妊娠するっていう行為ほどエントーテイメントなことは他にないよ。どうせ一度きりの人生なんだからとことん自分勝手に生きてみればいいじゃないか。だから俺は孕んだのさ」

まあ、いいんじゃない、というのが俺の意見なのにペラペラペラ理由を語ってくる友人にうんざりする。

「俺だって自分勝手に生きてるけど、子供を孕みたいとまでは狂気染めることは出来ないなあ」

と俺は述べてから、薄笑い。友人も薄笑い。

友人はそれから何ヶ月後だけに子供を産み落としたらしい。おっとりな女の子になる予定なその赤ん坊は、ひんやりとした目つきをしていたらしい。

で、それから二年後に、友人は殺されたというわけだ。その娘に。っていうのも友人が変態だったのが悪い。そういうわけで、友人はあまり同情されなかったわけだが、ほとんど赤ん坊のような見た目の子供が包丁で血まみれになって部屋で立ち尽くしていたという話は、ニュースになった。

赤ん坊が人を殺すなんて。
すごい時代になったもんだ。
そういうながら俺は腹をさすっていた。もうすぐ、子供が産まれる。

おぎゃあ！

俺は二年後に死にましたとさ。ちゃんちゃん。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0665n/>

孕んだ男たち

2011年11月13日14時53分発行